

# 施設園芸(ビニールハウス・温室)の

## 台風被害を防止するためのチェックシート

### ポイント

#### ◎天気予報等により、積極的に気象情報を収集する。

○台風の襲来前に、事前の準備をしっかりと行う。

① 戸締り、補強等の対策、② 飛来物等への対策、③ 強風への対応、

④ 潮風害への対応、⑤ 周辺の施設、機械の点検

○台風の進行方向の右側は、特に、強風に注意する。

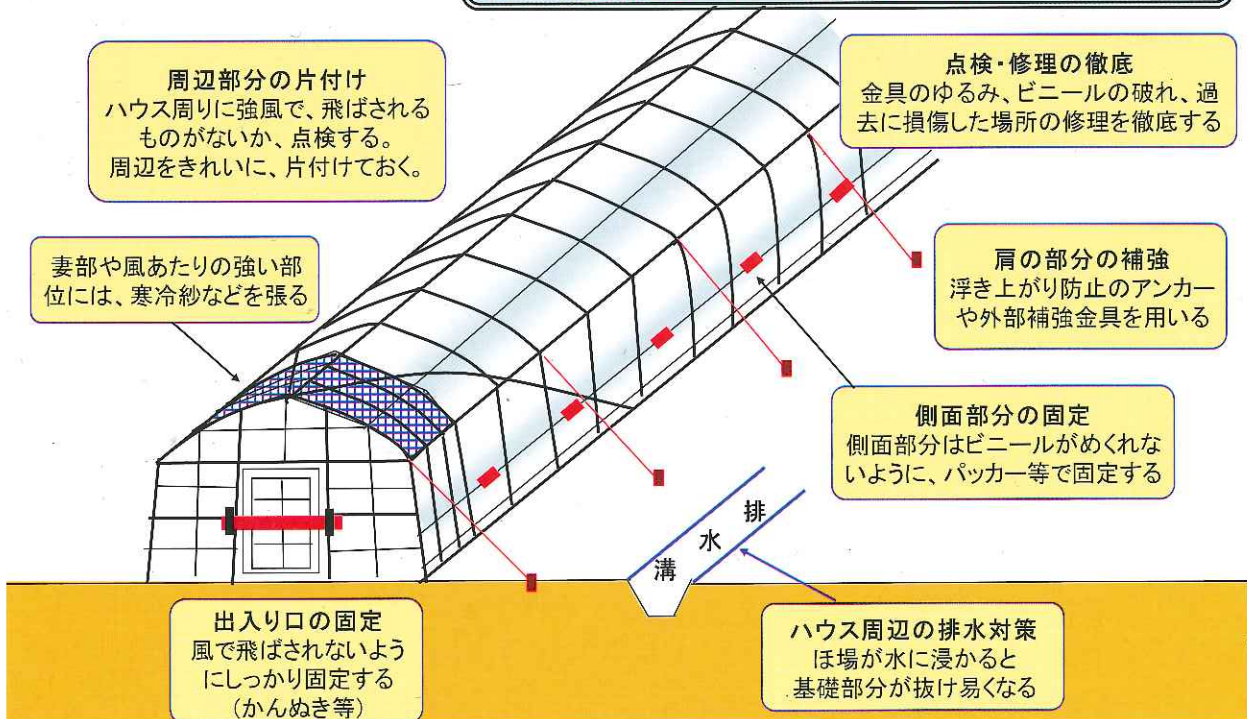
○骨材の保護のため、事前に積極的に被覆材を破った方が、施設への被害が少なくなる場合もある(パイプハウスの場合)。

○**台風通過中は、人命優先のため無理な作業は絶対に行わないこと。**

○台風通過後は早急に施設を見回り、作物の生育回復のため、潮風害対策等、当面の対策を徹底する。

### 台風接近前の対策

強風に耐えられないことが予想される場合には、**あらかじめ、被覆のビニールを除去し、パイプのみ**にしておけば、施設の破損は免れる



※ 詳しくは、「施設園芸における台風・強風対策マニュアル」を参照ください。

## ◎台風被害を防止するためのチェックシート

### ●台風が襲来する1日～2日前までに行っておく項目

項目	チェック項目(点検のポイント)	チェック欄	備考(想定される被害、留意点等)
台風襲来前の準備・点検	1	ハウス・温室の周辺は、片付いているか？ ●飛ばされる恐れがあるものは、施設周辺に置かない。	ハウス周辺のもの、飛ばされないように、しっかりと固定する。
	2	出入り口の戸締りは行っているか？ 出入り口の戸車、レールのはずれや痛みはないか？	強風に <b>建具があおられ破損</b> する。出入り口等が破損すると風が吹き込み、被害が大きくなる。
	3	風が吹き込こむことが予想される「隙間」は、すべてふさいであるか？ (とくに、天窗、サイド部分、出入り口付近)	風の吹き込みにより、被覆材の剥離、飛散や <b>施設の浮き上がりの原因</b> となる。
	4	被覆材のたるみや破れはないか？	フィルムがゆるんでいると <b>強風によってあおられて</b> 被害が生じやすくなる。
	5	被覆材は耐用年数を超えていないか？ ●事前に被覆材を除去しておくことで、強風時の骨材の破断(倒壊)を免れることができる場合もある。	被覆材の破損箇所からの <b>風の吹き込み</b> により、ハウスが破断・倒壊する可能性がある。
	6	ハウスバンドや被覆材の留め金に緩みがないか？	強風時に <b>フィルムがばたつくことで破れやすくなる</b> 。
	7	【鉄骨ハウス・温室】ボルトのナットやブレースに緩みがないか？	<b>ボルトが緩んでいると強度は低下する</b> 。
	8	換気部(サイド部分・谷部)から風が吹き込まないような対策は万全か？	側面部分は、 <b>スプリング・パッカによる補強対策</b> を行う。
	9	谷樋、縦樋が落葉やゴミで詰まっていないか？	降雨時に <b>樋から排水があふれ</b> 、施設内へ浸水する恐れがある。
	10	以前に被災した箇所の修繕は、しっかりと行っているか？ ●風が強く吹く場所は、事前に防風ネット等を設置。 ●破損しやすい部分は、事前に補強しておく。	折れたり、曲がったりした <b>パイプの再利用は強度が劣り</b> 、ハウスが倒壊する危険が高まるため <b>使用しない</b> 。また、錆びているものも強度が低下。

項目	チェック項目(点検のポイント)	チェック欄	備考(想定される被害、留意点等)
周辺環境	11 ハウス周辺の排水対策ができていますか？ ●周辺の排水溝のゴミは片付けておく。		施設の <b>基礎部分が浸水</b> すると、基礎が浮き上がりやすくなる。
	12 灯油タンク、ガスボンベ等は転倒しないように、しっかりと固定してあるか？ ●燃料タンクのバルブは閉じておく。 ●重油タンクの蓋が飛ばないように固定。		強風により、灯油タンク等が転倒した場合には、 <b>燃料パイプの破損や燃料漏れ</b> が生じる。
その他の対策	13 補修用テープ、ハウスバンド、スプリング等の補修用資材は準備してあるか？		台風通過後に <b>早急に応急修理が行えるように</b> 準備しておく。
	14 風を強く受ける部分の補強対策は行われているか？(強風への応急対策)		強風を受けやすいハウスは、肩部分をワイヤーで引っ張ったり、つかえ棒や外部補強金具で <b>補強</b> する。
	15 潮風害防止のため、散水の準備はできているか？ ●事前に、タンクに水を貯めておく。 ●停電に備え、動力噴霧器を準備する。 ●動土の燃料が十分あるか、確認する。		潮風害を受けた場合、台風通過後、 <b>直ちに散水して茎葉に付着した塩分を洗い流す</b> 必要がある。断水や停電により散水ができない場合も想定される。
	16 排水対策用のポンプの準備はできているか？		<b>冠水・浸水</b> の危険がある場合には準備が必要。
	17 停電に備えて、天窓(手動)の開閉用のチェーンや操作器具は準備してあるか？		台風通過後、 <b>停電</b> している場合に手動で開閉する。

### ●台風が襲来する直前に行う対策

直前対策	18 出入り口等、施錠できる場所は、しっかり戸締りしてあるか？ 天窓、サイド換気部はしっかりしまっているか？		隙間からの <b>風の吹き込み</b> により、ハウスが破断・倒壊する危険がある。
	19 不必要な電源は遮断してあるか？ (窓の自動開閉装置・暖房等)		浸水により、 <b>ショートや漏電</b> 等が生じる場合がある。
	20 換気扇のあるハウスは、換気扇を積極的にまわして、フィルムを引き付けておくのが良い(吸入口は閉じておく)。		換気扇をまわして、ハウス内部を負圧にすることにより、 <b>強風時にフィルムがバタつくのを防ぐ</b> ことができる。
緊急	ハウス内に風が吹き込む恐れがある場合、 <b>あらかじめ被覆材を破っておく</b> ことにより、骨材の被害を最小限に抑えることができる。(作物被害は大きくなるが、倒壊は免れる)		

### ●台風通過中は、人命優先のため、作業はおこなわないこと。

## ◎ビニールハウス・温室のメンテナンス

台風の襲来直前に、あわてて対策を行おうとしてもなかなか対応できません。ビニールハウス・温室は**普段からしっかりとメンテナンスを怠らない**ようにしましょう。

### ●普段から心掛けておく項目

項目	チェック項目(点検のポイント)	チェック欄	備考(留意点等)
腐食しやすい場所	1	パイプの脚部、接続部分、折り曲げ加工した場所にサビが生じていないか？	パイプ等にサビが生じていると強度が大きく低下する。
	2	ハウスでは棟部分、パイプハウスでは、アーチの上面等、常に結露して乾きにくいところのパイプが腐食していないか？	鉄骨造施設は、少なくとも <b>5～6年毎に再塗装</b> を行うことが望ましい。
	3	連棟ハウスでは、谷の <b>ところの樋や谷柱、谷梁</b> の部分、部品の <b>接合部分</b> に腐食やサビが生じていないか？	谷どい、特に構造部材として兼用するものは、 <b>防錆管理が重要</b> となる(強度を保つため)。
	4	雨漏り、浸水等により、常に湿った状態の場所があるか？ <b>湿りやすい周辺</b> の部材やパイプに痛みがないか？	鉄骨部材やパイプのジョイント部分は、 <b>結露した水</b> がたまりやすくサビやすい。
基礎・骨材・被覆	5	基礎を固定している <b>ボルトの緩みやサビ</b> 等による腐食がないか？	基礎は、建設当時の状態が変化していないか確認。
	6	基礎部分のすぐ近くまで、耕うんすることで、 <b>基礎の変形や浮き上がり</b> 等が生じていないか？	<b>地盤が緩んでいる</b> と、基礎が抜けやすくなる。
	7	出入り口の <b>戸車やレール</b> に傷みやガタツキが生じていないか？	<b>出入り口の部分は、最も傷みやすい。</b>
	8	<b>ブレース</b> 等の緩みがないか？また、サビ等が生じていないか？	強風・沈下等でゆるむことがあるので、2～3年に1回は点検する。
	9	<b>被覆材</b> は破れたり、汚れたりしていないか？ 雨漏りはないか？ ハウス側面の <b>スプリング</b> や留め金付近、 <b>巻き上げ部分</b> の被覆材に痛みがないか？	耐久年数を超えた被覆材は台風時に破れやすく、 <b>破れた部分から風が吹き込み被害</b> 大きくなる。
被災履歴	10	集中豪雨やハウスへの浸水によって <b>基礎部分の土が少なくな</b> っていたり、地盤が緩んだりしたことはないか？	ハウス全体に浸水すると、 <b>基礎部分の土が軟らかくなり、基礎が抜けやすくなる。</b>
	11	以前に強風等によって <b>曲がってしまったパイプ</b> を再利用して使用していないか？(新しい部材で補修してあるか？)	強風等により、 <b>曲がったり傷ついたりしたパイプは強度が低下</b> する。

※ 詳しくは、「施設園芸における台風・強風対策マニュアル」を参照ください。